記録・調査報告 Note

石垣島から得られたハタ科魚類の稀種 クレナイトゲメギス Suttonia coccinea の記録

吉田朋弘¹·萩原清司²·本村浩之³

- 『〒851-2213 長崎市多以良町 1551-8 国立研究開発法人 水産研究・教育機構 西海区水産研究所
- ² 〒 238-0016 神奈川県横須賀市深田台 95 横須賀市自然・人文博物館

(2019年2月12日受付; 2019年4月3日改訂; 2019年4月8日受理; 2019年6月18日J-STAGE早期公開)

キーワード:ヌノサラシ亜科、クレナイトゲメギス属、沖縄県、八重山諸島、分布

魚類学雜誌 Japanese Journal of Ichthyology

© The Ichthyological Society of Japan 2019

Tomohiro Yoshida*, Kiyoshi Hagiwara and Hiroyuki Motomura. 2019. A rare serranid fish, *Suttonia coccinea* (Teleostei: Perciformes), from Ishigaki-jima island, Yaeyama Islands, southern Japan. Japan. J. Ichthyol., 66(2): 217–219. DOI: 10.11369/jji.19-008.

Abstract A single specimen (43.8 mm standard length) of *Suttonia coccinea* Endo and Kenmotsu, 2013 (Perciformes: Serranidae), previously known only from the holotype from Okino-shima island, Kochi Prefecture, was located in the Yokosuka City Museum collection, having been collected from Ishigaki-jima island, Yaeyama Islands, Japan on 4 July 2000. The specimen represents only the second known record of *S. coccinea*.

*Corresponding author: Seikai National Fisheries Research Institute, Japan Fisheries Research and Education Agency, Taira-machi, Nagasaki 851–2213, Japan (e-mail: k5299534@kadai.jp).

ノ タ科クレナイトゲメギス属(Serranidae: Suttonia) は、世界にクレナイトゲメギス Suttonia coccinea Endo and Kenmotsu, 2013, カザンクレナイトゲメギス Suttonia lineata Gosline, 1960, および Suttonia suttoni Smith, 1953 の 3 有効種が報告されており、日本から は前者 2 種が記録されている(Endo and Kenmotsu, 2013; Yoshida et al., 2018).

2000 年 7 月 4 日に沖縄県石垣島の御神崎で S. coccinea に同定される 1 個体(標準体長 43.8 mm)が採集された. 本種はこれまで高知県沖の島からホロタイプの 1 個体が記録されているのみである. 本報告ではクレナイトゲメギス S. coccinea の形態的特徴や分布状況に関する知見の蓄積のため,石垣島産の標本を詳細に記載した.

計数・計測方法は Randall and Baldwin (1997) にしたがった. 本報告に用いた標本は横須賀市自然・人文博物館に保管されている. 本報告に用いた研究機関略号は NSMT (国立科学博物館) と

YCM (横須賀市自然・人文博物館) である.

Suttonia coccinea Endo and Kenmotsu, 2013 クレナイトゲメギス(Fig. 1)

標本 YCM-P 45135, 標準体長 43.8 mm, 沖縄 県八重山諸島石垣島御神崎(北緯 24 度 27 分, 東 経 124 度 04 分), 水深 28 m, 萩原清司, 手網, 2000 年 7 月 4 日.

記載 背鰭条数 VII, 23; 臀鰭条数 III, 18; 胸鰭条数 15; 腹鰭条数 I, 5; 側線有孔鱗数 22; 縦列鱗数 50; 総鰓耙数 13.

体各部測定値の標準体長に対する割合(%): 体高 31.5;体幅 16.4;頭長 39.5;吻長 7.3;眼径 8.4;両眼間隔(骨質部で測定)2.7;上顎長 20.1; 尾柄高 4.8;尾柄長 11.0;背鰭前長 38.4;背鰭基 底長 62.1;背鰭第1 棘長 4.6;背鰭最長棘条長 8.2; 背鰭最終棘長 7.8;背鰭最長軟条長 16.4(第 20 軟

^{3 〒 890-0065} 鹿児島市郡元 1-21-30 鹿児島大学総合研究博物館



Fig. 1. Preserved specimen of *Suttonia coccinea* from Ishigaki-jima island, Yaeyama Islands, Okinawa, Japan (YCM-P 45135, 43.8 mm standard length).

条);臀鰭前長 62.6;臀鰭基底長 31.5;臀鰭第 1 棘長 3.7;臀鰭第 2 棘長 6.2;臀鰭第 3 棘長 5.3; 臀鰭最長軟条長 14.6(第 17 軟条);尾鰭長 24.2; 胸鰭長 29.2;腹鰭前長 33.6;腹鰭棘長 5.0;腹鰭 最長軟条長 11.4.頭長に対する割合(%):吻長 18.5;眼径 21.4;両眼間隔 6.9;上顎長 50.9;下顎 長 61.8.

体は細長く側扁する. 吻端から背鰭起部にかけての背面は緩やかに曲がる. 前鼻孔は長い鼻管を有し, その先端が開孔する. 後鼻孔は孔状で, 眼前縁近くに開孔する. 前鰓蓋骨上に斜め後方を向く1棘を有する. 口は大きく, 主上顎骨後端は眼の後縁よりも後方に達する. 両顎に絨毛状の歯帯をもち, 上顎の縫合部付近に1対の犬歯状歯を有する. 鋤骨に V 字状の絨毛状の歯帯がある. 口蓋骨に1-3 列の絨毛状歯をそなえる.

体は全体が櫛鱗で被われる。体側鱗の露出部に 分布する小棘の先端は体側鱗の後端に達しない。 背鰭棘部と軟条部,臀鰭,および尾鰭の基底付近 は細かい鱗で被われる。胸鰭内側基部に鱗を有す る。側線は不完全で,鰓蓋上方から背鰭第4棘基 部直下にかけて緩やかに上昇し,背鰭第4軟条基 部直下付近で途切れる。最長の背鰭棘は第6棘。 背鰭軟条部の輪郭は丸みをおび,軟条はすべて分 枝する。最長の臀鰭棘は第2棘。臀鰭軟条部の輪 郭は丸みをおび,軟条はすべて分枝する。胸鰭後 端は背鰭第2軟条基部直下に達する。腹鰭起部は 胸鰭基底部上端直下よりわずかに前方に位置し, たたんだ腹鰭の後端は背鰭第4棘基部直下に達す る。尾鰭は丸みをおびる。 固定後の体色 体全体は淡黄色を呈する. 頭部は淡黄色で, 吻端から前鰓蓋骨にかけての頭部背側は黒褐色を呈し, 鰓蓋上方に眼径よりやや小さい1黒褐色斑を有する. 頭部正中線上に白色線を有する. 各鰭は半透明.

分布 本種は高知県沖の島 (Endo and Kenmotsu, 2013) と沖縄県石垣島 (本研究) から記録されている. 沖の島産標本は水深 16 m から, 石垣島産標本は水深 28 m から得られた.

備考 記載標本は背鰭条数が VII. 23 であること. 臀鰭条数が III, 18 であること, 胸鰭軟条数が 15 で あること, 頭部正中線上に白色線を有すること, お よび体側鱗の露出部に分布する小棘の先端が体側 鱗の後端に達しないことからクレナイトゲメギス属 に同定された(Randall and Baldwin, 1997; Endo and Kenmotsu, 2013; 吉田·本村, 2014; Yoshida et al., 2018; 本研究). さらに, 本標本は側線有孔鱗数が 26より少ないこと、頭長に対する下顎長の割合が 62.5%以下であること、体長に対する腹鰭長の割合 が13.0%以下であること、鰓蓋に輪郭に1黒色斑 を有することなどが、Endo and Kenmotsu (2013) の 報告した Suttonia coccinea の記載とよく一致したた め、本種に同定された. 本標本の側線有孔鱗数は 22 であり、彼らが記載した S. coccinea のホロタイ プ (NSMT-P 110917,標準体長 65.1 mm) の 26 より 少ない. しかし, 同属他種の S. lineata では側線有 孔鱗について 35-41 枚と幅広い変異が確認されて いることから (Endo and Kenmotsu, 2013), 石垣島産 標本の側線有孔鱗数は種内変異の範疇であると判 断した.

クレナイトゲメギスはホロタイプが知られているのみであるため、本研究で記載した石垣島産の1個体は本種の2個体目の記録である.

謝辞

本報告を取りまとめるに当たり、宮内庁生物学研究所に標本採集に関してご協力いただいた。また、原口百合子氏をはじめとする鹿児島大学総合研究博物館ボランティアの皆様と同博物館魚類分類学研究室の皆様には適切な助言をいただいた。ここに謹んで感謝の意を表する。本研究は鹿児島大学総合研究博物館の「鹿児島県産魚類の多様性調査プロジェクト」の一環として行われた。本研究の一部はJSPS科研費(19770067, 23580259, 24370041, 26241027, 26450265)、JSPS研究拠点形成事業一Bアジア・アフリカ学術基盤形成型、国立科学博物館「日本の生物多様性ホットスポットの構造に関する研究プロジェクト」、文部科学省特別経費「薩南諸島の生物多様性とその保全に

関する教育研究拠点整備」、および鹿児島大学重 点領域研究環境(生物多様性・島嶼プロジェクト) 学長裁量経費の援助を受けた.

引用文献

- Endo, H. and K. Kenmotsu. 2013. *Suttonia coccinea*, a new grammistin fish from Japan (Acanthopterygii: Serranidae). Bull. Natl. Mus. Nat. Sci., Ser. A, Suppl. 7: 11–18.
- Randall, J. E. and C. C. Baldwin. 1997. Revision of the serranid fishes of the subtribe Pseudogrammina, with descriptions of five new species. Indo-Pacif. Fish., (26): 1–56, pl. 1.
- Yoshida, T., K. Kuriiwa and H. Motomura. 2018. First confirmed Japanese record of *Suttonia lineata* (Percifomrs: Serranidae) from Iwo Island, Volcano Islands. Spec. Divers., 23: 229–232.
- 吉田朋弘・本村浩之. 2014. 屋久島から得られた ハタ科魚類ヤマトトゲメギス *Aporops bilinearis* の 分類学的再検討. Nat. Kagoshima, 40: 35–41.